

植物多様性センターの「翔ぶタネ」

秋になり種子をつけた植物は様々な工夫で種子を散布させます。そこには動けない植物ならではの生き残り戦略が見えてきます。

散布様式は様々ですが、今回は「翔ぶ」散布を紹介します。

◎自動散布：果皮の裂開や収縮する力で種子が弾き飛ばされる。

マメ科、スミレ科、フウロソウ科、ツリフネソウ科、カタバミ科など

◎風散布：風によって運ばれる。種子が軽く、翼や毛束をもつ。

キク科、ムクロジ科(カエデ属)、ケヤキ(葉が翼)、シラカバなど

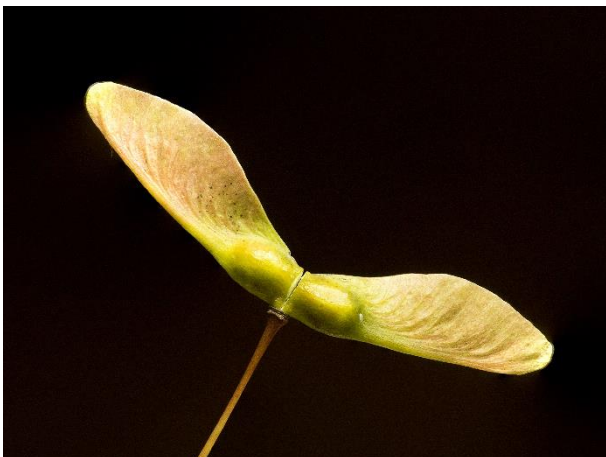
※自動散布した種子がアリに運ばれるスミレ科のように、複数の様式を併用する植物もあります。



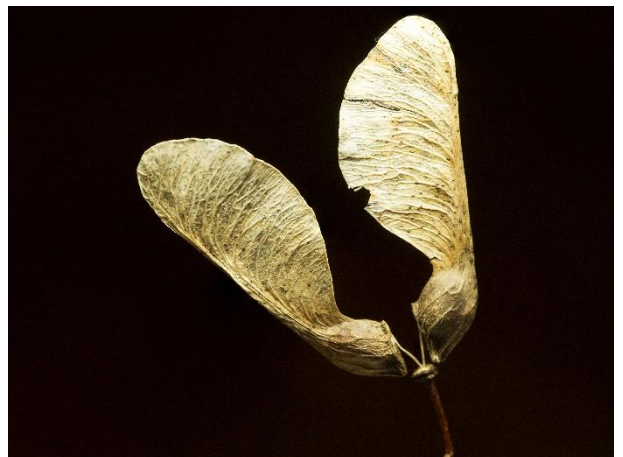
ゲンノショウコはタネを弾き飛ばす



オトコエシの種子には小苞由来の翼がある



イロハモミジの翼はほぼ水平
まだ枝についていた種子



トウカエデの翼は平行に近い
強風で落ちていた種子